待ちに待った給食
ごはん　豆腐スープ
ナキャベツメンチカツ

夢色通信☆ほぼ日刊 Carat☆

第６５４号
神町中学校　夢色通信社
令和２年６月４日

全校道徳
スポーツは、なぜ愛されるのか？

６月２日（火）、東根市立神町中学校体育館において全校道徳の授業が行われた。今回の題材は、「スポーツが愛される理由」である。冒頭、卓球の五輪代表、張本智和選手、伊藤美誠選手の写真が浮かび上がった。東京五輪が１年延期されたことをふまえ、「代表選手をもう一度選び直した方がよいか、このまま変えない方がよいのか」との問いが発せられた。真っ先に手を挙げた管大輝くん（２年）は、「その時に力を出せるという意味で、改めて選びなおした方がよい。」と発言した。それに対し小田仁くん（２年）は、「体調管理も含めて実力のある人を選んでいるのだから、変える必要はない。」との発言を行った。さらにこの日が誕生日だという高橋一粋くん（３年）は、「この１年で頑張る人も出てくるので、見直した方がいい。」と発言した。神中生全員に聞くと、ほぼ半々に意見が割れた。その後、「何のためにオリンピックに出場するのか？」と問われた神中生は、「参加することに意義がある」が１６人で、「勝つために出る」が多数を占めた。ここで「勝つために出るのだったら、より大会に近い時期に選手を選ぶべきではないのか？」と揺さぶられた神中生はしばし沈黙、「変えた方がいい」に意見を変える生徒が続出。さらに、オリンピックは勝つためにあるというなら『負けた選手には「価値」はないのか。オリンピックに出られなかった選手は、もっと価値がないのか？』と問われるが、「負けた選手に価値はない」に手を挙げる神中生は誰もいない。（君たち、それって矛盾していない？）

「じゃあ、どんな価値があるの？」と問われ、再び管大輝くんが挙手。「次に頑張ろうと思えれば、価値があるはずだ。」と発言。阿部倫也くん（３年）は「負けた選手も、目標に向かって努力し続けてきたことに価値がある。」と、神尾美結さん（３年）は「勝っても負けても頑張って取り組んでいることに価値がある。」と発言。最後に工藤結愛さん（３年）が「負けたからといって勝った人より劣っているわけではない。負けても、たくさん努力してきたことに価値があるのだと思う。」と発言した。１５分を残し、各教室に入り振り返りを行った。スポーツが愛される理由は何か。負けた選手には価値はないのか。夢色通信社には、たくさんの意見が寄せられた。その幾つかを（全てを載せたいのだが）、「カラット（655 号、654 号）」で紹介する。

昨日、昇降口前に謎のスクウェアが出現した。音楽・合唱の授業の１コマである。１年３組が、元気よく校歌を歌っていました。音楽係の増永優衣さんと　神尾璃子さんは、「マスクを外して思いっきり声を出して歌えたので、すっきりしました。難しい校歌なので早く覚えたいです。」と、晴れ晴れとした表情で話してくれました。これが、新たな学習様式（神中スタイル）である。

ナニコレ珍百景